臺灣日日新報（木曜日）　第一万三千四百二十九號　A（一）
（第二夕刊）（原稿配達）（但月額一圓五十錢九月第三種郵便物認可）　昭和十二年八月十二日

臺灣新民報 夕刊
八月十一日
一部一個定價 夕刊
編輯兼發行人 佐々木 貞
臺北市榮町四丁目二番地
臺灣日日新報社 印刷所

酒名 楓白鹿

抗辯の餘地なく 支那は頗る狼狽

上海市長南京に請訓

【上海十日發特派員同盟】保安隊員の我國陸戰隊士官殺害事件は今日まで上海北停車場上に追撃砲彈、機關銃等を驅使する優秀なる保安隊の挑戰的態度に我方當局が屢々政府當局に警告し、何市長の上海にて協議に至る迄は解決の意なき旨を通告するも、彼等は何等誠意を示さず、從つて我方は最後的決意の下に我が陸海空先遣隊の上陸を以て斷乎たる處置に出づる事となつた、然るに其の矢先に於て昨夜突如として保安隊の不法射撃や一點抗戰の痕跡なきに拘らず、支那側は我が陸戰隊の撤退を以て敗走なりと稱し、之を中央に報告すると共に、南京にも日高參事官との間に折衝を開始するに至つた

地方的に解決（支那側の方針）

【南京十日發同盟】支那側の方針は十日朝の閣議に於て決定したが、之は我が陸戰隊の撤退を以て敗走なりと稱し、之を中央に報告すると共に、南京にも日高參事官との間に折衝を開始するに至つた

責任轉嫁策は 全然失敗に歸す

支那も最初の主張を撤回

保安隊の發砲事件に關し支那側は十日午前九時より外交部に於て日高參事官と會見、我方の要求を容れ、事件を地方的に解決する旨を申入れたが、支那側は從來の主張を撤回し

臺灣日日新報　第一万三千四百二十九號　(第三種郵便物認可)

大論告を終つて
平田檢事より求刑
帝人事件に最後の斷
五日間に亘る

【東京十一日發同盟】帝人事件第三十三回公判は十一日午前十時から開かれ、中島元商相を始め政界、官界、財界の名士十六名を證人とする帝人側申請の證人喚問(帝人株買收問題に關聯ある證人は全部)に入つたが、檢事側の論告求刑は午後に持越され、午後一時から平田檢事は起つて論告を始めた、平田檢事は論告に入り平田、松本兩檢事は過去五日間に亘る檢事の論告を骨子とし、檢事の主張を強調し、被告の有罪を主張して被告事實の缺かすべからざることを論じて徹底的にこれを論駁し來つたが、十一日午前平田檢事は立つて情狀論と法律の適用を論じて五日に亘る未曾有の大論告を結び次いで午前十一時十五分左の通り求刑した

△懲役六月　△僞證
正三位勳一等元鐵道大臣　三土忠造(六)

△收賄
△同一年　從三位勳二等男爵(不求)　元貴族院議員　中島久萬吉(六)

△同二年　正四位勳一等元大藏大臣　黑田英雄(六)

△同十月　元大藏省銀行局長　大久保偵次(六)

△同八月　元大藏省特別銀行課長　大野龍太(六)

△同同　元大藏省理財局　相田岩夫(六)

△同六月　元大藏省銀行局長　小林中(六)

△背任　高岡俊兵保險支配人

△懲役一年二月　前帝人監査役　河合良成(六)

△背任

【基隆電話】南支よりの引き揚げ邦人をのせた第三船商船香港航路、廣東丸は十一日未明基隆に入港したが總督府二百十七名、疏開丸の船繰り關係で高雄に行く所を本船にのりかへた連中を合せ便利屋三十名、支那人の出稼ぎ勞働者は他か十名、引き揚ようにも金がなくて困つてゐる

一名、他は引き揚邦人が主で內地人は汕頭から二名、廈門から八名本島人は汕頭、廈門を合せて六十五名の總計七十五名であつた、總督府全くなしと云ふ何から何迄時局を反映せぬものはない、淋しい入港、只一ツ變つてゐるのは香港で長らく艦隊を慰んでゐる瑞西人の金持ちでマウゾ・ホワイト君(六)夫

引揚邦人を乘せ
廣東丸基隆へ——
汕頭、廈門から七十五名

【基隆電話】汕頭から引揚げて來た內地人婦人は我が領事館警察署長夫人千代子さん及び小幡治郎吉夫人富美子さんの只二人で交渉に當る

正式に邦人婦女子の引き揚げ命令が發せられた事は來航後聞きました、從つて殘つてゐる內地人婦人は領事夫人と慶愛醫院の看護婦さん二名、總合四名だけ(記者註——契約は他に數人の夫人となつてゐる人があつて五名であるが)で何れも男子の方々と最後迄殘留すると申してをられ領事夫人は外交官の妻として夫と生死を共にすると健氣な覺悟を示され一同大いに　感激致して居られます、勿論為替の夫はじめ男子の方々は死すとも我が權益を守る覺悟で活動してゐます男子の方にしろまた留守宅の婦人にしろ最後迄ましたる妻子供達のやうに取亂した態度にしろ常に外地にある日本人としてまた外交官の妻と家族として死はもとより覺悟のまへですから至極おちついてをり決して見苦しい狼狽は致しません、支那人の召使ひは女だけ殘つてゐますがとても迫害されるらしいです支那人はむしろ日本を恐れ向ふが手出ししなければ皆々だつて何もせぬと口で

申して
最後まで
ガン張る
領事夫人と看護婦

井手、小幡兩夫人交々語る

申しますが、未だ食糧亂脈迄には到つてゐませんが買ひ溜めだけはしてゐます、市中に於ける支那軍の防備は嚴重で入りこんだ兵隊と云ふは非常に市中を行進、また空には盛に飛行機をとばせてゐますがこれは日本人を威嚇してゐるのです、民衆に對する强制的な土木作業命令では女子供迄が夫を集めて大變な騷ぎでした、それから台灣の方に色々御世話になります事を深く御禮申上げます

【基隆電話】汕頭市では時局に鑑み屋外燈の消燈に就て發令された、警察署よりの通牒に基き十日夜各避難係方面の代表者の參集を乞うて市役所二階會議室で打合會を開催直ちに同夜より敵機來襲の場合は勿論實施實施した

基隆でもネオン燈を消燈
昨夜から實施

【基隆電話】基隆市では十日中の戰死者の告別式が行はれた

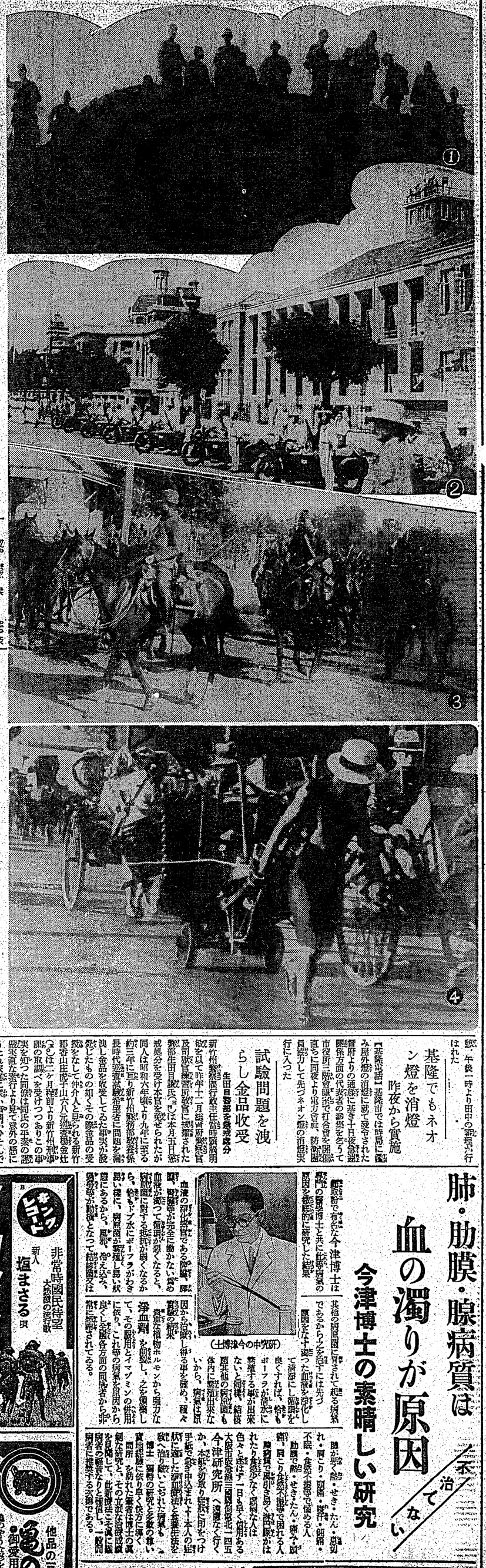
試驗問題を洩らし金品收受
生田目警部を懲戒處分

新竹州警察行政主任生田目警部(四四)は以て昨年十二月總督府警察官及司法官試驗實施所試驗に擬せられた部生田目警部(六)は本月五日懲戒處分を受けた本官を免ぜられたが同人は明治六年廣より九年に至る約三年に亙り新竹州警務部警務課長時代巡査試驗施行者に關係を漏洩し金品を收受してゐた事實が發覺したものの如くその際金品の受渡をなして仲介人と見られる新竹郡香山庄廣子山六八元巡査楊金灶(六)は二ケ月前より新竹州刑事部の取調べを受けつつありこの事實を知つた同僚は同氏の平素の態度實直な事より見て意外の感にうたれ家庭に深い悲嘆にひそんでゐるのではないかと噂されてゐる

國民精神文化講習會開かる
台北州教育課主催

台北州教育課主催の國民精神文化講習會(中等部)は十一日午前八時から台北第二高女に於て開會式を挙げた、州より知事代理內務部長、立川敎育課長、警務課長、高木台北警察署長、藤原學務課長其の他教員百四十名出席した、同講習會は向ふ四日間開催される

寫眞
(1)〇〇城へ入城の〇〇部隊　(2)萬一に備へ(待機する我が〇〇陸戰隊　(3)堂々〇〇へ入城する〇〇部隊　(4)家財を積み安住の地へ逃れる上海の支那民(陸軍省檢閱濟)



恐るべき培養細菌
天壇兵營から押收
細菌戰を準備した支那側の
暴虐を未然に發見

北平天壇の支那兵の我が軍による武裝解除によつて同所は既に我が手に歸したが支那兵營內に於て細菌研究所を設け居たが多種多樣の培養細菌を押收することを得た、之によつて見ると支那側は細菌戰の準備を爲しつつあつたものゝ一と發見し得たのは幸ひであつた

〝饗應は受けたが
職務には無關係〟
突込まれて逃げを張る安江
高雄州警察官瀆職の控訴公判

滿員である、裁判長の氏名点呼に引續いて高雄刑務所、證人として呼べる安江の收賄事實につき訊問を進め、安江は例の二三の收賄事實を認めるのみで收賄の點は否認、二三の收賄事實の點に出で警察官の職務に關係である等苦しい逃げを張り

裁判長　事件關係者と一緒に飲み食ひをなしてそれが如何なる意圖でなされ、如何なる結果を招來するかを何と思はなかつたかと突込まれ安江は

裁判事實の審理を終り午後一時より判決言渡

今晩の映畫

◎芳乃館　午十二時上映
1.大相撲夏場所ニュース　2.お祝ひ踊り　3.吉田御殿

◎大世界館　午十二時半上映
1.第三十二報　2.探偵ニュース　3.滑稽漫談を見ず　4.逃げ出す兵

◎新世界館　午十二時半上映
1.テキサスの旋風　2.ハイカウントニュース　3.極樂武士道　4.日本晴甲州街道

◎タイゲキ　午十二時半上映
1.台日發聲ニュース　2.愛華一代娘　3.北支那發ニュース　4.朱と緑(前篇)

◎國際館　午十二時半上映
1.台日發聲ニュース　2.大學の人氣者　3.團る若旦那

今晩の天氣

台北地方　北西の疾風發聲雨
北部　北西の疾風發聲雨
東部　北の疾風發聲雨
南部　北西の和風發聲一時雨

概況(十一日七時四分の高氣壓は北海道の東方海上にあり南に移動し七時四分の觀測は那覇の南二〇〇粁の海上にあり北西に進み次第に發達する模樣本島の天氣は全島概ね曇北部海上は東の疾風發聲雨降續き南部海上は南の和風で雨天は午後から曇となり北部海上は東の疾風で雨天ならば公會堂北部海上は南の和風で雨天は午後から曇となり北部海上は東の疾風で雨天は午後から曇となり

日ヤケを止めて白さを増す

ウテナバニシング（雪印）クリーム！

國産最高のクリームです！

乳化作用の完全なこと比類なしです。ですからサラリとお肌に溶けてベタつくことなく、爽やかにお肌を培ひます。生な儘な原料油や二三流のクリームでは色白の美しいお肌は創れません

是非ウテナバニシングを！

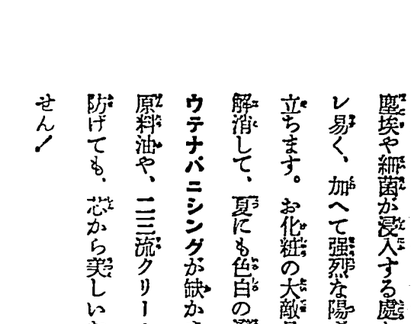
夏のお化粧が際立つて美しく仕上る白粉下クリーム！

夏は滴汗を誘化粧がいちばんですが、肝要な白粉下となるクリームのご選擇を誤ると、ムラについたり、崩れたりして暑くるしい感じを與へます。

ウテナバニシングはほんの少量でよくノビ、均等にお顔を包む樣にしますから、從つて白粉も平にツイてしつとりとお肌になじみます。又、汗、脂肪の烈しい分泌を整へて、爽やかにお化粧保ちを良くする効果がありますから、夏のお化粧には絶對に手離せぬクリームとして絶讃を戴いて居ります！

日ヤケ・肌アレを解消して見違へる程美しいお肌に！

夏は皮膚の分泌物が烈しいために、氣孔は開いて塵埃や細菌が侵入する處となり、お肌は非常にアレ易く、加へて強烈な陽ざしに日ヤケの醜さが目立ちます。お化粧の大敵日ヤケ、肌アレを完全に解消して、夏にも色白の清楚な若肌を保つには、**ウテナバニシング**が缺かされません。生なまゝな原料油や、二三流クリームでは單なる日ヤケ位は防げても、芯から美しいお肌を育くむ事は出來ません！



●ご洗顔・入浴後に爽快
●ニキビ・吹出物を解消して皮膚に潑剌さを與へる
●お化粧を美しく永保ちさせる最適の化粧下

正價　六五セン・三九セン

明るく爽やかなお化粧が驚く程永保ちするので、全女性間に評判な粉白粉

粒子に……獨特の新しい工夫が施されてあるウテナ粉白粉は、どんなお肌の方にも良くついて、極めて明朗な近代調のお化粧映へを見せるので評判てす！

粉白粉の惡質なものを夏に御使用になりますと、一生除れぬ惡質のシミや、其他の皮膚障害を起しますから是非共優秀性能を誇るウテナ粉白粉とお決め下さい。必ず明に更を過せます！

●明朗な近代調
肌色・濃肌色・健康色
白色・ブルン・ナチユレル
オークル一號・オークル二號

正價・五五セン・三〇セン

ウテナ粉白粉

東京　ウテナ化粧料本舗　株式會社　久保政吉商店

12.8—ネ.1

國定忠次（二）

（其十四）

長谷川伸作
岩田專太郎畫

清水の鰹（七）

那ひが經るまで、治三郎は、どこか、沈んだところがあったので、太郎兵衛も女房も、内心では、まだ鰹をたてるのだと思った。が、治三郎は、黙ってゐない、それ以外が、兄にも、甥にも、時どきそっと名殘りを慌ね眼つかひを向けてゐる。

「なあ治三郎おら、生れつき意久地がねえだ、われながら厭いと思ふだが、今度のことでもよ、おらさへいやんとしてゐたら、お前の命を助くさせねえものを、それ思ふと、死んだ親さまや七藏や、生きてゐるお前達に、向ける顏ねえだ」

「何をいふだい兄や、その裏にも泣き濟んだではねえか、姉サ、呼うたつて聞かさうか、兄やお前も呼へうた」

「さうだな、呼うたうかなあ」

「姉サ、おらが呼を、おつかあが褒めてくれた事があつただ。それつてあげるが良い」

「姉サ、うたうぞ」

兄夫婦の手拍子に、治三郎も手拍子を入れ、むづかりうたつた。

「鳥も鳴はね、山狹なれど、住めば都よ、わが里は」

それに釣りこれ、太郎兵衛が一段の聲さよ、この日のながさ、四月五月の、日のながさ」

のん氣にうたつた。

太郎兵衛の女房が、繰り呼をうたへば、太郎兵衛が、聖打呼をうたう、いつか、夫婦揃合ひで、呼を競ひ合ふ和かさを、治三郎は時どき、羨しい眼でみてゐる。

と、治三郎が、呼を、呼を呼びこんだ、何かうたうらしい、で、太郎兵衛夫婦が待つた。

治三郎は、地鎭和呼をやり出した、又句と呼の良調さが、しばらく、聽ひ入られてゐた、太郎兵衛夫婦を泣くませた。

「鳴く鳴く関所地越す、関所地越す、夜の雪路を夢さし、風に出現し給ひて、衆生の苦惱を除け、哥將無垢の大士たち、その數あまたましませど大野大悲の誓こと、地鎭呼に

優者で、長閒、面倒かけただ濟まぬことでした」

「治三さん、何をいふだ、わしはお前が續でねえか」

「でもなあ、おら異朋者だで、兄き。お前にも世話やかして、一ツ飲んでくれ」

「急にお前そんな事いつて何だ」

「おら醉つただ」

「妙なこと云ふでねえ、氣にかからず聞いてくれ」

「氣にかける程にはねえ。まあ、呼うたうから聞いてくれ。盛呼がいいだ、賑やかでな」

治三郎は、盛慨りの眼を、二ヶ三ツ、立てつづけにうたつた後で

「では兄き、姉サ、おら歸るだから氣つけてくれ」

言外に、別の意味を含め、出て行つた。

しくはなし、無垢まり我專流轍して、いつか生死をはなるべき、大轍記題のやうさまは、車の廻るがごとくなり——」

太郎兵衛の女房は、鼻を詰らせ袖で涙を押へてゐる。太郎兵衛は杯を口へもつて行くさへ聞つた。

「二ヶ呼ばひしはじめより、無垢のくらき闇に入り、最後の廻り澤ければ——」

はたと、治三郎が口を噤んだ。銀を涙が走つてゐる。

聲が白眼わたつた。佛壇の燈明が顫いてゐる。

雨が板廂に、高い音をたてゐる。

と、再び、治三郎が口をひらいた。

「毎日晨朝入諸地獄念誦引導……無垢世界廣生……」

和讃の終りにある句を、治三郎はほろほろ、涙を流しながら口にした。一句一句の意味がわかつて

旅のお土産に 流行の民藝人形

——斬新とした古典美と野生美——

實際、澤多人形なしは世界に誇る日本獨特の人形であつて、他國では想像さへ叶はぬ獨自の世界を持つて居ります、艶、色調など巧く調和ニッポンの人形にふさはしく、一点非の打ちどころのない人形です、ただ單に觀賞的なものでなく、その人形一つにも彼等の根調いものがありますこれらの人形にも取材を能樂、歌舞伎の世界に求め、それに現代の呼吸を吹き込んだものもあるやうですこれが歐米人の賞讃される所以でありませう、これこそ現代に生きてゐる古典美とも申すものでせう

◇　◇

ただ殘念なことは、澤多人形は壊れ易いといふ缺点があります、そのために遠方と外人から苦情が出るやうです、これは一つは非直して欲しいことで、材質をなんとか工夫することによつてこの缺點は除かれる譯です、それについて考へられるのは、天平時代の佛像や我國の四天王の像などを研究の對象としてふさはしいものと思ひます

◇

近頃急に觀光客の間に人氣の出て來たのは、假想あたりの民藝人形、特に一刀人形などですが、これは缺點深いもの一つです、白樺の小枝を二、三寸の長さに切りこれに一刀彫をした達人形、しかもこれが旅からの便者となつて都會の知人に山の香りを運んで來るといふ實用的價値を持つて來てゐるのですから、民藝人形として、ある世界を開拓してゐるものと見るべきでせう

◇　◇

山の香、湖の香を傳へるこれらの民藝人形も價格が頗る安く、一體にこんな安價では製作費がどうして出るのだらうかと、自分が貧、水彩をしたことのあるためにつまらぬ心配をさへする程です、安いから味がないかといふとさうでなるのではない、これによつて、五部左衛門を刺し殺した後に、次の世界で尊かれるものと、觀照禪地藏菩薩に願る心である。

さうとに心付かない太郎兵衛夫婦は、何となく寂しく、有難く、

「兄き、一杯くれ」

「おう」

「姉サ、一杯飲んでくれ。おら我

十字ニュース

△上海ノ大山中尉シヤサツ事件ニツイテ實地檢證ヲシマシタガ ソノケツクワ支那側ノ不法行爲デアルコトガカクニンサレマシタ

△イヨイヨ時局ガキフハクシツツアルノデ憲漫デハ防空ジユンビヲススメルタメ十一日夜カラ屋外電燈ヲセイゲンスルコトニナリマシタ スナハチネオンサインハゼンブケスコト屋外燈ハ五百ワツトヲ越エテハイケナイコトナトデアリマス

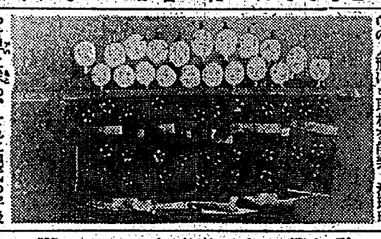
今週の映畫

松竹大船作品

朱と綠

タイゲキ上映中

喜朝・大朝に連載された片岡鐵兵の中間小說の映畫化、監督島津保次郎、即色田中絹代、坊敷寶吉の杉草吉は父松澤の妻增山安（東日出子）の家に來てゐる大阪の戸山芳夫（上原謙）と知り合ひになり一目合つた時からお互ひに何となく惹かれて戀した。彼千晶の寢室に賊が忍び込んだが千晶の賊に對する態度から父も增山安夫も千晶が貞操まで奪はれた疑ひ彼女に非解を迫つた、五月雨降くなつた千晶は一時妻をかくすべく大阪に歸つた戸山を訪れて東京を逃れた大阪では上流武倉に食ひ込んでゐる舟瀨昆子（岡村文子）の家に戸山が間借りしてゐた、ここの姐雪枝（高峰三枝子）は戸山に關心を抱いてゐたが戸山には感じない、一方千晶は二十万円の株券を持つて來出したいふので株券に目をつけ



た增山安は千晶の後を追つて大阪へ、それと知つた松澤が又その後を追ふ、株券と株券を賣つて耶件は大阪で二重三重に縺れ、增山安夫の惡心惡業、雪枝の死に依て戸山と千晶の間は結ばれるが、先に千晶を奪つた陸岡川三（佐分利信）は依然につながれ「强盜に入つた」とのみ云ひ張り眞實を語らないが、千晶の證言に依て、以前彼女が何心なく好意を寄せたことから結婚を迫つて侵入したものと判り結では解決する、前記出演者のほかに裁判長（原健男）弁護士（武田春郎）取締コロ（河村黎吉）酒三の父（水島榮太郎）堅主（三宅邦子）他にジョン・クロフォード、ロバート・テイラー、フランチョット・トーン、ライオネル・バリモア演出「新聞記者」（M・G・M）

商況（十一日）

正米市況前場

▲期米標米各限不申

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

▲期先標米各限不申

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

▲期先標米

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

大阪期米前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京短期前場（單位圓）

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

大阪長期前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京長期前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京銀行實株

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

紐育株式

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

紐育棉前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

外國爲替相場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

神戸對外爲替前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京國債前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

神戸長期前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

大阪短期前場（單位圓）

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

神戸期米前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京期米前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京長期前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

東京短期前場（單位圓）

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

大阪砂糖現物

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

大阪清算前場

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

玖馬砂糖

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

紐育砂糖

限	寄	高	安	引	商
先					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
中					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇
後					
限	二〇三	二〇四	二〇三	二〇四	三〇〇

潮汐（十二日）

	滿潮	干潮	滿潮
基隆	一五	八一〇	一三
淡水	一二	五五〇	一二

メガホン塔

▲万國共住の市會議長よ、せめて煤煙防止にでも一肌ぬいでは如何（住民民）▲東京の公債分賦賣はどこにありますか（信州者）▲石光君年齢と何をぐづ〳〵してゐるのだ非常時だ少し活動せよ（旧國民）▲城南分會の点呼變智は何日から始めますか（會員）▲蛍狩行バス内でバス代十錢下さいました方様ご感謝しまず殘り二錢は獻金しました（鉄路の女）▲築町を始め市内各所ひを調ふ時までそれ以後は禁止するといふ殺な御限は出來ませんか（新興兒）

喘息

往診代用新藥

大學病院公立病院一般有名醫家並に藥局に常用せらる

アスピロン

毛主ホルモン コレステリン配合

競馬チック

輕快な魅力！

競馬チックを使つた整髮美の爽やかさ！

元禄香 小倉商店

淋病の短期療法

無代進呈

神戸市海岸通一丁目六番地

蛭ヒ

パピオの乙Mが發売されました。

これ迄のクリームの半分量で使つて下さい。のびるから。

Cファンデーション化粧下80錢・伊東化學研究所

A一般用（男小供も）B荒れ性用各60錢・デパート有名店ニ有・東京淺草松清町

昔

無かつた 腦痛止め 樂に效く この時世

に痛・ツミキ・けや胸

ルノ錠ンザモ

諸治の多過酸胃、痛症と眩暈

臺日案內

內地土產

桐田のパインアップル　電三六五六

冷し西瓜は祠田　電三六五五

おみやげ品とタンスの御用は三共舍へ

内地南洋種鳳梨　本甘一丁目通五二三番　大賀商店

樂器

山葉オルガン　月賦販賣修理調律　日本樂器會社

化粧音樂器

ラヂオ　月賦販賣と修理　蓄音器　兒玉町　太陽堂商店

寫眞

フタバ寫眞機部　寫眞機と材料の御用は、寫北市榮町二　電話七〇〇番

時計眼鏡

メガネ專門金光堂　榮町一丁目　電二〇八三

料理屋

料理辨當仕出し　金本家　電話五四〇五番

壽司天ぷら魚文　電二五番八

自動車

第一タクシー　電二〇八三　城內營業所

第一タクシー　株式會社　御成營業所　電四四九〇

金融

電話一番は三成社

小金融　證券書類二銀り迅速　西門町場通ベス通中橋電四九二七

金融　二月限最五ヶ月月賦　日本銀行筋同業六割七厘銀行並

藥種商

喘息にワンカ　服んで效く效く　北市榮町四ノ一二　製元森田博子

淋病に黑燒（あげの黑燒）　北大正町六　製造發賣元森田博子

洋服

イナダの婦人服大見切　北榮町北

雜件

電話一番は三成社

壽司天ぷら魚文　電二五番八

淋病の短期療法

神戸市海岸通一丁目六番地

蛭ヒ

玉ホワイトワイン

暑中・中元御贈答用最適品！

夏季の强健を保持するために　夏負け　疲勞　病弱の回復に　朝に一杯／夕に一杯／

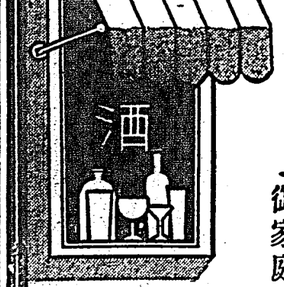
絕對に着色せず

制酸錠

御家庭の必備藥

酒の飲みすぎに！　宿醉の苦しさに！　甘い物の過食に！　ぜひお用ひ下さい

百二十錠入　二十錢　二百錠入　三十錢



さけのどくけし ワリミ

電實なお酒の嗜しに

ミツワ石鹼本舗

東京・用國丸見屋商店

臺灣日日新報
本日夕刊共十二頁
編輯兼發行人　佐々木　雋
電話番號　四四五五番
社會部　所屬　電話　一〇一八番

日本會計學會編纂
會計
（十一十二）
八月號
（第四卷第八號）
○利益率と投資回轉率との分析と綜合關係　淵部鐵雄
○財務諸表の公表性　宇原鐵豐
○財產の價額に就て　加藤良平
○營業の讓渡に就て　沼田嘉穗
○法人所得の申告に就て　津田新一
○退職積立金及退職手當會計解說　岩林盛兒
○利益率增加の研究　但馬弘一
○大規模製鐵工作業における會計部門の職務　磯田賢一
○利子の原價問題管見　沢瀉弘治
○計數上より見たる學術研究團體　富山忠雄
○昭和十二年度豫算編成に關する諸問題　古川一夫
○會計時評　△會計制度の改革　△地方財政と一般會計　△會計檢查院　△會計法改正　△會計檢查院
○會計文獻　△會計學會編纂　△會計學會編纂
○會計記錄　△會計學會編纂　△會計學會編纂
（會員外）一ヶ年前金（郵稅共）金壹圓七拾錢
（會員）一ヶ年前金（郵稅共）金壹圓
日本會計學會編輯
東京市麹町區丸ノ内二ノ一
丸ノ内ビルヂング
日本會計學會
電話丸ノ内（23）一一一一番
振替口座東京一六九九番

日本會計學會創立二十周年記念論文集
評價問題研究
我會計學界の第一線に立つ指導的學者總動員の珠玉の大集成
A5判　四百頁　定價金壹圓五拾錢　郵稅十錢

評價總論
（内容目次）
◆新聞紙上に現はれたる正規會計◆資產評價の意義◆資產評價の沿革◆資產評價の目的◆資產評價の標準◆資產評價の原則◆資產評價の方法◆資產評價の種類◆資產評價の時期◆資產評價の實例◆資產評價の本質◆企業の價値と評價◆資產評價と利益計算◆資產評價と財產目錄◆資產評價と貸借對照表◆資產評價と減價償却◆資產評價と利益金の處分◆資產評價と資本金◆資產評價と會社の解散◆資產評價と會社の合併◆資產評價と會社の更生◆資產評價と會社の整理◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の分割◆資產評價と會社の新設◆資產評價と會社の變更◆資產評價と會社の增資◆資產評價と會社の減資◆資產評價と會社の社債◆資產評價と會社の配當◆資產評價と會社の課稅◆資產評價と會社の檢查◆資產評價と會社の監督◆資產評價と會社の罰則◆資產評價と會社の訴訟◆資產評價と會社の和解◆資產評價と會社の仲裁◆資產評價と會社の調停◆資產評價と會社の裁判◆資產評價と會社の判決◆資產評價と會社の執行◆資產評價と會社の破產◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の解散◆資產評價と會社の合併◆資產評價と會社の更生◆資產評價と會社の整理◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の分割◆資產評價と會社の新設◆資產評價と會社の變更◆資產評價と會社の增資◆資產評價と會社の減資◆資產評價と會社の社債◆資產評價と會社の配當◆資產評價と會社の課稅◆資產評價と會社の檢查◆資產評價と會社の監督◆資產評價と會社の罰則◆資產評價と會社の訴訟◆資產評價と會社の和解◆資產評價と會社の仲裁◆資產評價と會社の調停◆資產評價と會社の裁判◆資產評價と會社の判決◆資產評價と會社の執行◆資產評價と會社の破產
（内容目次）
◆新聞紙上に現はれたる正規會計◆資產評價の意義◆資產評價の沿革◆資產評價の目的◆資產評價の標準◆資產評價の原則◆資產評價の方法◆資產評價の種類◆資產評價の時期◆資產評價の實例◆資產評價の本質◆企業の價値と評價◆資產評價と財產目錄◆資產評價と貸借對照表◆資產評價と減價償却◆資產評價と利益金の處分◆資產評價と資本金◆資產評價と會社の解散◆資產評價と會社の合併◆資產評價と會社の更生◆資產評價と會社の整理◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の分割◆資產評價と會社の新設◆資產評價と會社の變更◆資產評價と會社の增資◆資產評價と會社の減資◆資產評價と會社の社債◆資產評價と會社の配當◆資產評價と會社の課稅◆資產評價と會社の檢查◆資產評價と會社の監督◆資產評價と會社の罰則◆資產評價と會社の訴訟◆資產評價と會社の和解◆資產評價と會社の仲裁◆資產評價と會社の調停◆資產評價と會社の裁判◆資產評價と會社の判決◆資產評價と會社の執行◆資產評價と會社の破產

評價各論
（内容目次）
◆新聞紙上に現はれたる正規會計◆資產評價の意義◆資產評價の沿革◆資產評價の目的◆資產評價の標準◆資產評價の原則◆資產評價の方法◆資產評價の種類◆資產評價の時期◆資產評價の實例◆資產評價の本質◆企業の價値と評價◆資產評價と財產目錄◆資產評價と貸借對照表◆資產評價と減價償却◆資產評價と利益金の處分◆資產評價と資本金◆資產評價と會社の解散◆資產評價と會社の合併◆資產評價と會社の更生◆資產評價と會社の整理◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の分割◆資產評價と會社の新設◆資產評價と會社の變更◆資產評價と會社の增資◆資產評價と會社の減資◆資產評價と會社の社債◆資產評價と會社の配當◆資產評價と會社の課稅◆資產評價と會社の檢查◆資產評價と會社の監督◆資產評價と會社の罰則◆資產評價と會社の訴訟◆資產評價と會社の和解◆資產評價と會社の仲裁◆資產評價と會社の調停◆資產評價と會社の裁判◆資產評價と會社の判決◆資產評價と會社の執行◆資產評價と會社の破產
（内容目次）
◆新聞紙上に現はれたる正規會計◆資產評價の意義◆資產評價の沿革◆資產評價の目的◆資產評價の標準◆資產評價の原則◆資產評價の方法◆資產評價の種類◆資產評價の時期◆資產評價の實例◆資產評價の本質◆企業の價値と評價◆資產評價と財產目錄◆資產評價と貸借對照表◆資產評價と減價償却◆資產評價と利益金の處分◆資產評價と資本金◆資產評價と會社の解散◆資產評價と會社の合併◆資產評價と會社の更生◆資產評價と會社の整理◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の分割◆資產評價と會社の新設◆資產評價と會社の變更◆資產評價と會社の增資◆資產評價と會社の減資◆資產評價と會社の社債◆資產評價と會社の配當◆資產評價と會社の課稅◆資產評價と會社の檢查◆資產評價と會社の監督◆資產評價と會社の罰則◆資產評價と會社の訴訟◆資產評價と會社の和解◆資產評價と會社の仲裁◆資產評價と會社の調停◆資產評價と會社の裁判◆資產評價と會社の判決◆資產評價と會社の執行◆資產評價と會社の破產

評價學說研究
（内容目次）
◆新聞紙上に現はれたる正規會計◆資產評價の意義◆資產評價の沿革◆資產評價の目的◆資產評價の標準◆資產評價の原則◆資產評價の方法◆資產評價の種類◆資產評價の時期◆資產評價の實例◆資產評價の本質◆企業の價値と評價◆資產評價と財產目錄◆資產評價と貸借對照表◆資產評價と減價償却◆資產評價と利益金の處分◆資產評價と資本金◆資產評價と會社の解散◆資產評價と會社の合併◆資產評價と會社の更生◆資產評價と會社の整理◆資產評價と會社の淸算◆資產評價と會社の分割◆資產評價と會社の新設◆資產評價と會社の變更◆資產評價と會社の增資◆資產評價と會社の減資◆資產評價と會社の社債◆資產評價と會社の配當◆資產評價と會社の課稅◆資產評價と會社の檢查◆資產評價と會社の監督◆資產評價と會社の罰則◆資產評價と會社の訴訟◆資產評價と會社の和解◆資產評價と會社の仲裁◆資產評價と會社の調停◆資產評價と會社の裁判◆資產評價と會社の判決◆資產評價と會社の執行◆資產評價と會社の破產

本格化された 臺灣の防空
"空の非常時" 第一歩に入る

一

時局の急迫するにつれ、台湾の防空が本格化されねばならぬ事は敢て贅言を要しないが、帝国民として、又、空への防衛に軍命の努力を傾注すべきなつてゐるか否である。非常時だとか、事変だとかいふけれども、本心は未だ〳〵大丈夫といふ様な慢心の何処かに持つてゐるのではないか。之が即ち油断大敵であつて、今迄は兎に角、現下の情勢に於ては何時、いかなる変りの奇襲が加はらぬとも限らない。銃後防衛が、十二日より全台湾に亘り未曾有の規模と内容に於て実施せらるゝに当り本島人側の防空への第一歩と銘めて敢て喚起を与へるまい。

二

また空襲を受けた際の無、日本国民たるに、"防空"といふ事に関し何等の真剣味を感じ得ない様な者もあるが、之が最も危険であるとされてゐるが、台湾の台湾が屢はれる様な事は、先ず無いと見てもよいが、之等の飛行機は、軍略上、重要、戦闘上等のため大多数の飛行機を見ねばならぬので、平時の如く多数の飛行機が常に本島の空を飛び廻つてゐるやうなことは

國家非常時の時局克服に協力せよ

臺灣にも施行
北支事件特別税令
所得税以下五種に亙り短期實施
けふ公布さる（府報參照）

既報北支事件特別税は内外地一體非常時局克服の意味で、台湾にもひとしく施行されることとなつたが（本紙附録府報參照）その經過と内容につき總督府江藤財務局長代理は次の如く語つた

江藤財務局長代理談

本日を以て内外地一體に北支事件特別税が實施せられるに當り、茲に其の大要を申述べまして、此非常時に際し、擧國一致益々納税報國、銃後國防體制の鞏固に努められんことを衷心切に望んで止まない次第であります

本税の骨子

今本税の骨子を申述べますれば、法案の名稱は台湾では台湾北支事件特別税令（律令）と申すことになりましたが、其の内容は殆ど内地と同樣でありまして特別所得税、臨時利得特別税、公債及社債利得税、臨時利益税（貸借及年賦行）、農業資本利益税、營業收益税、資本利子税、配當特別税、公社債利子税、物品特別税、十九万五千四百二十七円、合計一億百五十四万六千四百二十七円、利益配當特別税二十七万六千四百二十四円、公債及社債利得税六十五万五千六百六十四円、物品特別税十万八千八百六十六円を追加發行に決定したのであります。明年度の見込額は六十八万八千八百十五万円であります。因に内地一般會計に於きましては、本年度六十六百五十四万八千円、明年度二十四百九十九万千円、合計一億百五十四万六千円の増收のやうであります

×　×　×

今や北支事變の擴大は、支那の不法なる抗日侮日政策の根本的清算に外ならず、東亞の安定勢力を確立する聖戰であります。

×　×　×

地一體となつて非常時局の克服に邁進し國運の伸張を期することとなつたのでありまして、台湾と致しましても、從來戰爭又は事變の際又は戰後の經營の為、内地に於て非常時特別税、臨時利得税其の他の增徴、新税がありましたときに、何れもこれに協力し來つたことは御承知の通りであります。本税の創設も亦これと同樣であつて、時局の重大性に鑑み、擧國一致國防體制の强化に資する爲、國民各位に於かれましては、何卒此の趣旨を體せられまして、大衆課税に陷らずして相當擔税能力のある階級を對象として、一年限りの國防獻金の如き形式を採つたのであります。

×　×　×

終に臨み本日より北支事件特別税を納められる各位と致しましては相當の營業又は收入のある階級の方々でありまするので、更に一層國防獻金に努められんことを望むと共に、島民中本税に關係の無い大多數の人々と致しましては、本税の負擔を擴充して、假令其の一部なりとも國防の一翼として其の分に應じ本税の納税者に劣らないやうに、否寧ろ一層進んで國防獻金に於ける國民精神發揚に資する爲、其の後の情勢に伴ひ、是が爲に要する經費の一部を負擔することは當然であります。

臨時利得税

納税者の利益を標準として、其の施行期限は第一種及第二種所得税に付ては本日より明年八月十一日迄の一箇年、第三種所得税に付ては明年三月三十一日限りであります

臨時利得税

納税者の利益を標準として、其の施行期限は第一種及第二種所得税に付ては本日より明年八月十一日迄の一箇年、第三種所得税に付ては明年三月三十一日限りであります

配當特別税

配當金に付ては、配當金中年七分を超ゆる金額の一割

公社債利子

に付ては、國債は利率年四分、地方債及社債は利率年四分五厘を超ゆる金額の一割に相當する金額の特別税をそれぞれ本日より一箇年間課することとなつたのであります。次に

物品特別税

といふのは一種の特別消費税で、織布石（織布及半曲行）、農業資本利益税、營業收益税、資本利子税、配當特別税、公社債利子税、物品特別税、臨時利得税、臨時利益税（貸借及年賦